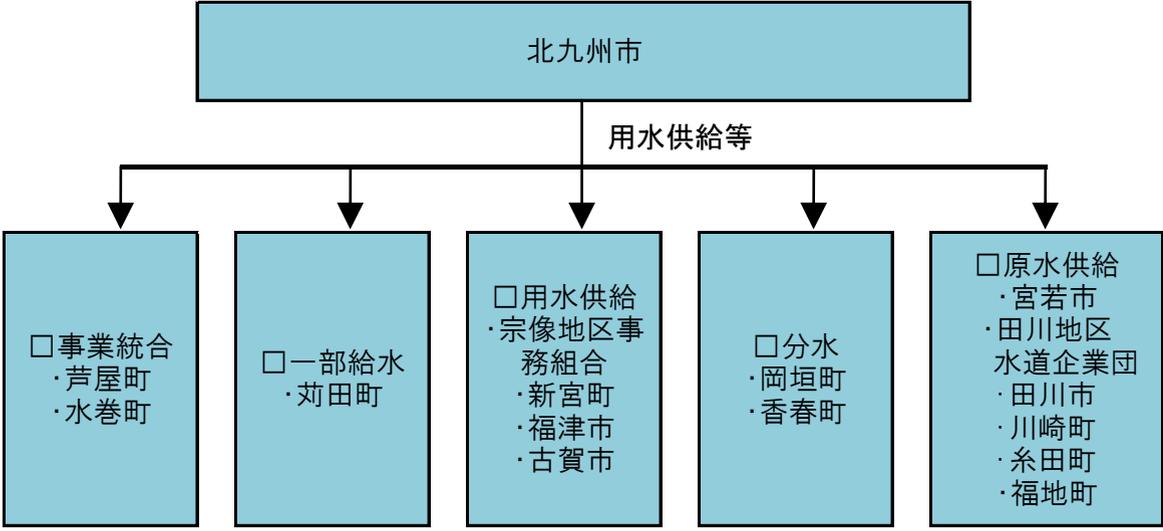
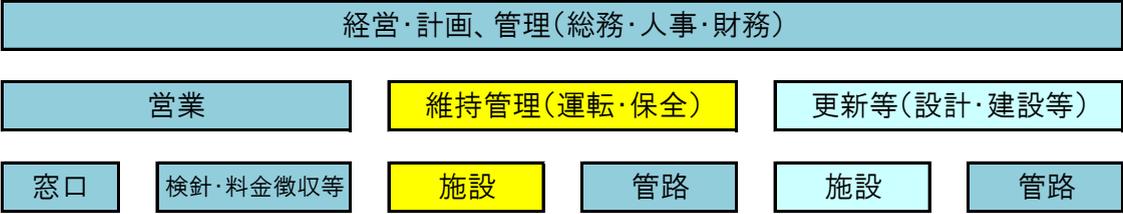


広域連携事例① 北九州市による行政区域外への給水を通じた連携	
事業規模等	給水人口 : 995,603 人 1日最大給水量: 334,205 m <sup>3</sup> /日 給水面積 : 270.16 km <sup>2</sup> 職員数 : 【直営】 348 人【第三者委託】 0 人 【委託】 0 人
スキーム等	
経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北九州市より周辺市町に対する分水や原水供給等は従来より実施</li> <li>○平成19年10月 : 芦屋町、平成24年10月に水巻町と事業統合</li> <li>○平成20年3月 : 苅田町に一部給水</li> <li>○平成23年4月より宗像地区事務組合・新宮町に、平成28年4月より福津市、古賀市に用水供給</li> </ul>
広域連携（事業統合）のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材及び技術力の確保 [水道技術の継承]</li> <li>・ 料金の適正化 [北九州の余剰能力の有効活用により、水巻町にて料金45%ダウン]</li> <li>・ 日常の施設管理水準の向上 [分水の解消]</li> </ul>
広域連携（事業統合）のデメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとに施設設備水準が異なるため、水準合わせが必要となる</li> <li>・ 該当地域への説明会の開催が必要 [地域により、料金制度等が異なるため、北九州市の制度に一元化]</li> </ul>
業務手法（公民連携等）	公営を基本 + ③業務委託(包括・性能発注) 北九州市委託(運転維持管理業務)
対象業務（維持管理体制）	 <p>※1 用水供給等に伴い、周辺市町は浄水施設の更新が不要。また新規水源を確保。          ※2 北九州市は収入の増加、施設稼働率向上等。</p>
浄水施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転維持管理業務 (北九州市)</li> </ul>